



HFIは、国内・海外の子どもたちの成長を応援しています。

\*フィリピン セブ島 都市部・山間部の子どもたちへの就学サポート

\*東日本大震災被災地の高校生への奨学金等

## Contents

- TOPICS 被災地支援
- 被災地支援の現場から
  - 宮城県本吉響高等学校 …P.2
  - 宮城県気仙沼向洋高等学校
  - じゃがいも収穫、仮設住宅へ …P.4
- 活動報告
  - フィリピン就学支援 …P.5
- 日本事務局から
  - 総会報告・決算報告 …P.7
  - スタディーツアーのお知らせ …P.8
  - モンゴル教育セミナー開催
  - ジョイ\*ジョイ・ブック

### 巻頭言

## 包み支え合う社会の実現

ある出来事をきっかけに、それまで意識しなかったことに気づかされることがあります。聞こえなかった隣人の叫び声に耳が開かれ、見えないでいた隣人の姿に目が開かれるのです。大切なのは、そうした人々に向かい合う気持ちを持つのみならず、包み支え合う力を養い、実際に包み支え合う共同体を実現していくことです。

3.11の被災地支援に関わって考えさせられていることは、私たちは、今、被災前から存在していた問題を避けて通ることのできない状況に直面しているということです。高齢者、障がい者、外国人、生活困窮者など様々な人々の課題に腰を据えて取り組む必要を感じています。包み支え合う社会をどのように再興するか、これが問題です。被災地の復興は、経済的、物質的な繁栄を取り戻す以上のことだからです。

「包み支え合う」ということばは、英語で言えば、インクルージョン (inclusion) です。そもそもこのことばは、1980年代に、アメリカの学校教育の現場で注目された用語です。元々、白人と黒人が分かれて学んでいた状況を黒

人差別であると判じた「ブラウン判決」(1954年)に起源を發したと言われていています。それが障がい児教育の現場に広がり、さらには、特別養護老人ホームなどで暮らす高齢者、地域から排除されたホームレス、日本社会に溶け込めない外国人など、多様な人々を視野に入れて「誰もが地域で包み込まれて、支え合って暮らしていく」ことを目指す用語となりました。それは、単に場を共にする物理的な共生ではなく、まさしく心理的・社会的な支えとなる共生を意味します。

しかしながら、何かのきっかけによってこうした意識が芽生えること以上に、芽生えた意識が育てられていく、そして実際に包み支え合う社会を実現しようとする青年たちが育っていくことが、私たちの願いです。HFIは、海外や日本において、子どもたちを支援しながら、その子どもたちが、受けることから、さらに包み支え合う、優しくも強い信念を持った子どもに育つビジョンをもって、新年度も活動を進めてまいります。続けて、皆さんの知恵あるご指導とご協力をよろしく願いいたします。

(HFI代表 福井誠)